

「鴻の湯」の由来（城崎町湯島）

温泉（おんせん）の町「城崎（きのさき）」の旅館（りょかん）、土産物（みやげもの）やの建ち並ぶ（たちならぶ）、にぎやかな通りを過ぎて（すぎ）て、ずっと奥まった（おくまった）、静かな（しずかな）地に「鴻の湯（こうのゆ）」という外湯（そとゆ）（共同浴場（きょうどうよくじょう））が、あります。

「鴻の湯（こうのゆ）」は六世紀（せいき）ごろといえますから、今から、千三百年余り（あまり）も前（まえ）に、このあたりの人によって、見つけ出された（みつけだ）と、いわれています。

ここには、「城崎温泉発祥（きのさきおんせんはっしょう）の地」という立柱（たてばしら）があり、そばには「鴻の湯神社（こうのゆじんじゃ）」という小さなほこらもあります。このあたり一帯（いったい）は、「鴻の湯（こうのゆ）」を中心にして、小さい公園（こうえん）のようになっており、春夏（しゅんか）はもとより、秋の紅葉（こうよう）の時季（じき）にはとりわけ美しく、静かな（しずかな）ところです。

さて、この「鴻の湯（こうのゆ）」について、町の古老（ころう）は、ぼつり、ぼつりと、眼（め）をとじ、思い出をたどりながら、語（かた）って（かた）つて（か）れました。

『ずっと、ずっと大昔（おおいそ）にな、この湯島（ゆしま）の里（さと）、大瀬川（おおたにがわ）の上流（じょうりゅう）に、それは古い、大きな松（まつ）の木（き）が一本（いっぴん）あってな、その木（き）の上に、それは仲（な）のええ夫婦（ふうふ）の鴻（こう）のつるが、巣（す）をかけておった（お）つた（つ）そう（そう）な。

ところが、どうしたことか、そのうちの一羽（ひと）が、ある日（あるひ）、脚（あし）に大けが（おほいけが）をしてな。たぶん、この時分（じぶん）、このあたりに、わんさとすんどった狐（きつね）かいたちに、ふいにおそわれた（おそ）らうな。巣（す）をた（た）って、えさのたに（た）しやど（ど）じょう（じょう）をさがし（さ）にもい（い）げず、巣（す）の中（な）で、しょんぼり、悲（かな）しそう（そう）に（に）し（し）と（と）つた（つ）そう（そう）な。残り（のこ）りの一羽（ひと）が、それはそれ（それ）は、せわ（せ）を（を）や（や）いて（い）て（て）な。

それが、ある日（あるひ）のこと。けがをした（した）鴻（こう）のつるは、巣（す）の近く（ちかく）の田（た）の中（な）に、ひょ（ひょ）こん（こん）と（と）お（お）り（り）て、一日（いちにち）中（な）その場（ば）（ば）に立（た）っていた（た）そう（そう）な。それ（それ）からは、来（く）る（く）る（く）る（く）る）日（ひ）も来（く）る（く）る）日（ひ）も、雨（あめ）が降（ふ）つても（も）、日（ひ）が照（あ）つても（も）、同（おな）じ場所（ばしょ）（ばしょ）に（に）お（お）り（り）て（て）来（き）て（て）は、立（た）ち（た）ち（た）ち（た）ち）続（つ）けて（て）つ（つ）づ（づ）けて（て）お（お）つた（つ）そう（そう）な。

それが、ふしぎ（ふしぎ）な（な）こと（こと）に、そこ（そこ）に立（た）つ（つ）よう（よう）にな（な）って（て）十（じゅう）日（ひ）も、いや、二十（にじゅう）日（ひ）ぐら（ら）いと（と）も、い（い）わ（わ）れ（れ）て（て）い（い）る（る）け（け）ども、と（と）にか（か）く、日（ひ）がた（た）つ（つ）につ（つ）れて（て）、鴻（こう）のつるは元（げん）気（き）を（を）と（と）り（り）も（も）ど（ど）して（て）な。その（その）うち（うち）、脚（あし）のけが（けが）が（が）す（す）っ（つ）かり（かり）治（な）って（て）な（な）お（お）つ（つ）て（て）、前（まえ）の（の）よう（よう）に「カク、カク」と鳴（な）き（き）ながら（ながら）、元（げん）気（き）に空（そら）を（を）と（と）んだり（たり）、田（た）の中（な）を（を）歩（あ）き（き）ま（ま）わ（わ）る（る）よう（よう）にな（な）つた（つ）そう（そう）な。

この（この）よう（よう）す（す）を、近（ちか）くの田（た）ん（ぼ）で（で）仕（し）ごと（と）を（を）し（し）な（な）が（が）ら、毎（まい）日（ひ）見（み）て（て）いた（た）付（つ）近（きん）の百（ひゃく）姓（せい）（ひゃくしやう）が、ふしぎ（ふしぎ）に思（おも）って（て）な、ある（ある）日（ひ）、鴻（こう）のつるが（が）お（お）り（り）立（た）つ（つ）て（て）いた（た）場所（ばしょ）（ばしょ）を（を）調（しら）べ（べ）て（て）み（み）た（た）そう（そう）な。すると、どう（どう）した（した）こと（こと）だ（だ）らう（らう）、その（その）田（た）の中（な）か（か）ら「お湯（ゆ）」（おゆ）が（が）ぶ（ぶ）く（く）ぶ（ぶ）く（く）と（と）わ（わ）い（い）て（て）いた（た）ん（ん）じ（じ）ゃ（ゃ）。び（び）っ（っ）くり（くり）する（する）やら、よ（よ）ろ（ろ）こ（こ）ぶ（ぶ）やら。

そこで、百（ひゃく）姓（せい）（ひゃくしやう）たち（たち）は、その（その）場所（ばしょ）（ばしょ）に（に）小（こ）屋（や）（こや）を（を）た（た）て（て）、毎（まい）日（ひ）仕（し）ごと（と）（しごと）が（が）終（お）わ（わ）る（る）（おわる）と（と）、この（この）湯（ゆ）（ゆ）に（に）つ（つ）か（か）る（る）こと（こと）に（に）した（した）そう（そう）な。ええ（ええ）あ（あ）ん（ん）ば（ば）い（い）の（の）湯（ゆ）（ゆ）で（で）な。つ（つ）か（か）れた（た）手（て）や（や）足（あし）を（を）の（の）ぼ（ぼ）して（て）いた（た）そう（そう）じ（じ）ゃ（ゃ）。



この湯（ゆ）に（に）つ（つ）か（か）ると、くた（く）び（び）れ（れ）も（も）よう（よう）と（と）れ（れ）て（て）な。それ（それ）に、手（て）や（や）足（あし）の（の）す（す）り（り）き（き）ず（ず）も、う（う）ん（ん）だ（だ）り（り）せ（せ）ん（ん）と、ぐ（ぐ）わ（わ）い（い）よう（よう）な（な）お（お）つ（つ）た（た）そう（そう）じ（じ）ゃ（ゃ）。

百（ひゃく）姓（せい）（ひゃくしやう）たち（たち）は、ふしぎ（ふしぎ）な「お湯（ゆ）」（おゆ）だ（だ）と、会（あ）う（あ）う）人（ひと）ご（ごと）に（に）話（わ）して（て）は（は）な（な）して（て）な。それ（それ）を（を）伝（つた）え（え）聞（き）いた（た）つ（つ）た（た）え（え）き（き）いた（た）人（ひと）ま（ま）で（で）が、こ（こ）を（を）た（た）ず（ず）ね（ね）て（て）は（は）い（い）り（り）に（に）く（く）る（る）よう（よう）にな（な）つた（つ）そう（そう）な。そう（そう）して、だ（だ）れ（れ）い（い）う（う）と（と）も（も）な（な）く、こ（こ）の（の）お（お）湯（ゆ）（ゆ）を（を）「鴻（こう）の湯（ゆ）」（こうのゆ）と呼（よ）ぶ（ぶ）よう（よう）にな（な）つた（つ）とい（い）う（う）こと（こと）じ（じ）ゃ（ゃ）。』

今（いま）の（の）建（た）て（て）もの（もの）は、十（じゅう）年（ねん）余（あまり）前（まえ）に（に）あ（あ）た（た）ら（ら）しく（しく）建（た）て（て）か（か）え（え）ら（ら）れ（れ）て、民（みん）芸（げい）的（てき）な（な）「山（やま）の湯（ゆ）」（の感傷（かんしやう）を（を）さ（さ）そう、や（や）わ（わ）ら（ら）か（か）い（い）感（かん）じ（じ）（かんじ）の（の）モ（モ）ダ（ダ）ン（ン）な（な）建（た）て（て）もの（もの）で（で）す（す）が、今（いま）から（から）五（ご）十（じゅう）年（ねん）も（も）前（まえ）の「鴻（こう）の湯（ゆ）」（の写（しゃ）真（しん））（を見（み）ます（す）と、田（た）の中（な）に、ち（ち）ょ（ょ）こ（こ）ん（ん）と（と）建（た）つ（つ）て（て）く（く）た（た）つ（つ）て（て）い（い）る、淋（さ）び（び）しい（しい）感（かん）じ（じ）の（の）小（こ）さ（さ）い（い）浴（よく）場（じやう）（よくじやう）で（で）す。

全（ぜん）国（こく）各（かく）地（ち）（ぜんこくかくち）から（から）城（じやう）崎（さき）温（おん）泉（せん）（きのさきおんせん）を（を）訪（おと）ず（ず）れる（る）客（きゃく）（きゃく）が（が）、年（ねん）ご（ごと）に（に）ふ（ふ）え（え）て（て）い（い）ま（ま）す（す）が、中（な）には、わ（わ）ざ（ざ）わ（わ）ざ（ざ）こ（こ）の「鴻（こう）の湯（ゆ）」（を（を）た（た）ず（ず）ね（ね）て（て）入（い）浴（よく）（にゅうよく）し、疲（つか）れ（れ）（つかれ）や（や）傷（きず）（きず）を（を）い（い）や（や）す（す）人（ひと）が、あ（あ）と（と）を（を）た（た）ち（ち）ま（ま）せ（せ）ん。

